

第1回～3回丹波市水害現地ボランティア活動報告

本校では、これまで平成23年3月に起こった東日本大震災に対して、4回の現地ボランティア活動を実施してきただけではなく、地元郷瀨町水害ボランティアや地域ボランティアなど、「ボランティアの西脇北」として、すぐに駆けつける思いやりを大切にしてきた。これらの経験を生かし、8月16日～17日に起こった丹波市の水害に対して、下記のとおり、第1回8月20日、第2回8月23日、第3回9月6日と被災家屋床下の泥除去や水路確保、家屋保護の土嚢積みなど率先してボランティア活動をしてきた。このことは大きく報道され、近隣の学校や地域の方々のボランティアへの参加促進に大きく貢献した。しかしながら、現地では今なお復興が進まず、ボランティアの数もまだまだ不足している。そのため、再度現地へ赴き被災地復興の一助になればと第4回丹波市水害現地ボランティア活動を計画しているところである。

- 1 日時 第1回 平成26年8月20日(水) 7:50～17:30
 参加者 計5名(引率教員2名〈男子2名女子0名〉・生徒3名〈男子3名女子0名〉)
 第2回 平成26年8月23日(土) 7:50～17:30
 計24名(引率教員6名〈男子6名女子0名〉・生徒18名〈男子10名女子8名〉)
 第3回 平成26年9月6日(土) 7:50～17:30
 計28名(引率教員13名〈男子11名女子2名〉・生徒15名〈男子6名女子9名〉)
 第4回 平成26年9月14日(日) 7:50～17:30 予定

- 2 場所 兵庫県丹波市市島町・春日町周辺水害被災地
 (丹波市市島ボランティアセンター(丹波市役所市島支所) 経由 各実施場所
 兵庫県丹波市市島町上田 448 番地1 電話: 0795-85-2750)

- 3 行程 7:50 学校集合 8:00 出発式 ①田畑校長挨拶 ②生徒代表決意のことば
 8:10 出発 9:10 丹波市市島ボランティアセンター到着、活動場所指示受
 9:50 午前ボランティア活動 第1回丹波市春日町山田地区 第2回市島町水西区周辺
 12:00 休憩 13:00 午後ボランティア活動
 15:00 終了、片付、更衣、移動
 15:40 丹波市市島ボランティアセンター活動終了報告、健康チェック
 16:10 出発 17:10 帰校、用具清掃、片付け
 17:20 解団式 17:30 解散

第1回～第3回現地ボランティア活動の活動風景

第1回丹波市水害現地ボランティア活動 (兵庫県丹波市春日町山田地区)



丹波市春日ボランティアセンターで受付



山田地区は山からの水が床下へ浸水



納屋には4 cmの粘土質の土砂が堆積



土砂を土のう袋に入れた後、水で清掃



清掃後、ピカピカになった納屋



公民館前で、区長さんと家主さん

第2回丹波市水害現地ボランティア活動（兵庫県丹波市市島町水西区）



丹波市市島町ボランティアセンターで現地リーダーから注意



市島町水西区公民館で、現地リーダーから説明を受ける



床上浸水した民家



床の間の床下の泥除去



粘土質の泥は重たく、乾くと粉じんになった



床の間は板をめくれず、床下に潜って、どろどろになりながらの作業



家主さんにご家族はすごく喜んでいただいた



川までの水路を確保する作業を実施

第3回丹波市水害現地ボランティア活動（兵庫県丹波市市島町徳尾区）



第3回丹波水害ボランティア出発式（28名）



民家の山沿いに土嚢を3段積む作業の説明



徳尾区は約80戸。過疎に悩まされている



地周辺の山沿いの民家はすべて土砂が入った



土砂は細かく重く最初作業に戸惑った



男女に関わらずスコップの使い方に慣れてきた



土嚢のづくりに慣れ、スピードが上がった



全生徒が、スコップの使い方、土嚢の積み方を習得した



土嚢は全部で200作った。



作業の終盤では30分で100のペースでつくれるようになった



生徒リーダーが溝の土がいっぱいになっているのを見つけ、みんなで土砂を上げた



スコップの扱いに自信を持った生徒は、短時間で土砂を処分できた



民家の向かいを流れる川で用具の清掃を行った



西脇市社会福祉協議会様のバス提供のお陰で有意義な被災地支援活動ができました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



山沿いの民家はほとんどの家に土砂が流入し、多数の家が倒壊した



民家から運び出された使えなくなった冷蔵庫やがれきなどの仕分け場

《参加した生徒の感想》

- ・テレビでみるのと実際の風景はぜんぜん違った。やってみるとすごく大変で、筋肉痛になった。
- ・最初はぎこちなかった作業もどんどん慣れ、午後にははてきぱきとこなせるようになった。
- ・最初行くかどうしようか迷ったけれど、被災された方が涙をながされながら「ありがとう」と言われ、びっくりした。来て本当に良かった。
- ・私たちが作業した所は、ほんの一角で、まだまだボランティアの手が必要だと思った。また来たい。

《第2回丹波市水害現地ボランティア活動 出発式生徒代表挨拶》

私たちは、平成23年3月11日に起きた東日本大震災に対して、4回のボランティア活動を行ってきました。私は、第1回から3回連続行かせていただき、被災地の支援をするとともに多くのことを学ばせていただきました。8月16日から17日に起こった地元の丹波の水害、そして今なお90名におよぶ死者・行方不明の方がいらっしゃる広島の大災害を前にして、いてもたってもいられない思いでいっぱいでした。今回、いろいろな方々のご支援により、丹波市市島町で被災地支援ができますことを感謝するとともに、安全に留意して、精一杯頑張りたいと思います。

兵庫県立西脇北高等学校 生徒代表 丹波市水害現地ボランティアリーダー 4年次 平山

《第3回丹波市水害現地ボランティア活動 出発式生徒代表挨拶》

私たち西脇北高校生は、平成23年3月11日に起きた東日本大震災に対し、4回の現地ボランティア活動を行ってきました。被災地では4年たった今でも震災の爪痕が残っていました。私たちは、被災地の支援をするともに多くのことを学ばせていただきました。

今、全国で起こっている「平成26年8月豪雨」での大災害を前にして、いてもたってもいられない思いでいっぱいでした。西脇北高校は、8月16日から17日に起こった地元の丹波市の水害に、被災直後の8月20日、23日に約30名が現地ボランティア活動を展開しました。2回の活動をとおしてボランティア数の不足を痛感しました。今回、いろいろな方々のご支援により、丹波市で3回目の活動ができますことを感謝するとともに、安全に留意して、精一杯頑張りたいと思います。

私たち西脇北高校がいろいろな活動することによって、ボランティア活動の必要性を少しでも多くの高校生や地域の方々と共有し、ボランティア参加の輪が広がることを心から望みます。

兵庫県立西脇北高等学校 生徒代表 丹波市水害現地ボランティアリーダー 3年次 矢田部